

ナシ「恵水」の適正着果量は樹冠占有面積1㎡当たり10果

[要約]

「恵水」の成木で高品質かつ多収生産のための適正な着果量の目安は、樹冠占有面積1㎡当たり10果である。若木時の着果は、側枝（短果枝）1m当たり6果程度とし、3果そう当たり1果を目安に着果させる。

農業総合センター園芸研究所	平成27年度	成果区分	普及
---------------	--------	------	----

1. 背景・ねらい

ナシ新品種「恵水」は、大玉で豊産性な中生品種であり、現在ブランド化を目指して県内での普及を推進している。栽培面積は拡大中であり（平成27年：6.7ha）、品種特性を生かした高品質多収生産技術の開発が求められている。

そこで、高品質かつ多収生産を目指した栽培上重要である着果管理において、着果管理方法（着果量確保）の目安を示し適正着果量を明らかにする。

2. 成果の内容・特徴

1) 着果量10果/㎡では、収量4t/10a以上の高収量が得られ、一果重500g以上の果実の割合が60%前後と大玉果の割合が高い（表1、2）。

着果量8果/㎡では一果重は大きい収量は低く、12果/㎡では着果過多であり収量が多いが一果重が小さい。

2) 着果量10果/㎡の果実品質は、8果/㎡と同等の高糖度で、12果/㎡よりも高い（表1、2）。着果量10果/㎡では、糖度13%以上の果実の割合が77%であり、他の着果量よりも高い（表1）。

3) 着果量10果/㎡は、12果/㎡よりも一果重が500g以上かつ糖度13%以上の果実割合が高く、果実品質が高く安定しており、品質面で優れる（図1）。

4) 樹冠拡大中の若木期においては、樹冠占有面積当たりの着果数の確保が難しいため、側枝単位での着果数を基準とする。着果量10果/㎡での側枝（短果枝）1m当たりの着果数は6果程度で、3果そう当たり1果の着果であり、若木期はこれを目安とする（表3）。

3. 成果の活用面・留意点

1) 本試験は「恵水」高接ぎ7年生及び8年生樹を用い、8年生樹では樹冠拡大が完了したため、着果量は成木での基準となる。

2) 平成27年産の中生品種は収穫期の天候不順により全体に低糖度であり、「豊水」の糖度は平年より1.0%低く、「あきづき」では1.1%低い。

3) 今回の試験樹は棚付けした枝全体における短果枝本数が40~50%程度である。1年枝（短果枝以外の枝）は花芽数がわずか、あるいは葉芽のみであり、短果枝の育成を目的に棚付けしている。側枝育成確保の方法については主要成果（平成25年度）や、恵水栽培管理マニュアルを参照する。

4) 「恵水」は大果となるため、果実肥大とともに短果枝痕や棚線による傷、スレが発生しないよう着果部位に注意する。

5) 本成果は県下全域で適用可能である。

4. 具体的データ

表1 「恵水」の着果量が収量および一果重、糖度に及ぼす影響(平成26年)

着果量	収量 1) (t/10a)	果重			糖度		
		一果重(g)	400g以上の 果実割合(%)	500g以上の 果実割合(%)	Brix%	12%以上の 果実割合(%)	13%以上の 果実割合(%)
8果/m ²	4.0	557	88%	65	12.9	97	50
10果/m ²	4.8	541	89%	64	13.1	100	77
12果/m ²	5.1	504	77%	46	12.7	93	23

注1) 10a当たり収量は、樹冠占有率90%で換算

注2) 試験樹は高接ぎ7年生

表2 「恵水」の着果量が収量および一果重、糖度に及ぼす影響(平成27年)

着果量	収量 1) (t/10a)	果重			糖度		
		一果重(g)	400g以上の 果実割合(%)	500g以上の 果実割合(%)	Brix%	12%以上の 果実割合(%)	13%以上の 果実割合(%)
8果/m ²	3.5	518	93%	50	12.5	82	12
10果/m ²	4.4	506	88%	55	12.5	80	16
12果/m ²	4.6	459	67%	34	12.2	68	6

注1) 10a当たり収量は、樹冠占有率90%で換算

注2) 試験樹は高接ぎ8年生

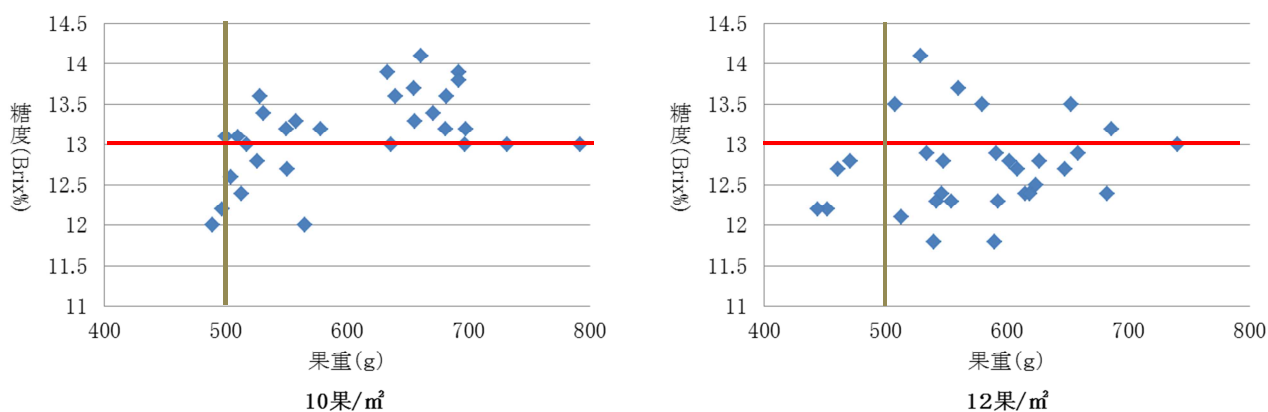


図1 「恵水」の一果重と糖度の関係(平成26年)

表3 「恵水」10果/m²区樹における着果数(平成27年)

全側枝 (短果枝)長:A (m)	着果数:B (個)	側枝(短果枝)1m 当たりの着果数 B/A	全果そう数:C (個)	着果1果に対 する果そう数 C/B
41.66	249	6.0	721	2.9

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

ナシ新品種「恵水」の高品質多収穫生産技術の開発・平成26～28年度・果樹研究室